

第5回疾患別TQM大会

kurobe city hospital

9月20日第5回TQM大会が開催されました。
今回のテーマは「分娩」で、各部門で活発な論議がなされました。

【仕事人集合の図】

ほのぼのとした内にも、やる気が満ち溢れています。さすがプロ！



■ 1. 当院における分娩について(医師の立場から)

□ 産婦人科医院 高地 圭子



■ 2. 正常分娩クリニカルパスの現状と今後の課題

□ 東病棟2階主任助産師
福沢 智香子





■ 3. 満足のできるお産を目指して

□ 東病棟2階助産師 廣瀬 亜純



■ 4. 正常分娩CPの薬剤検討

□ 薬剤科主任 長能 優子



■ 5. 分娩TQM

□ 医事課主事 能登 啓尚



6. 栄養管理

栄養科主査 飯野 みゆき



【武器なき戦いの図】

熱演を終え、一息吐く間もなく質問が飛び交います。

演者と質問者のせめぎ合いに、会場は固唾を呑んで見守ります。





皆さん遅くまでご苦労様でした。

第6回開催はより充実した形を目指していきたいと思っておりますので、ぜひ皆様のご意見をお寄せください。

■ 特別寄稿文 高地先生

第5回TQM大会は当院における分娩をテーマとして行われました。妊娠・分娩に関しては医療や看護の面においてやや特殊であり他科の医師や他病等の看護師たちは興味を持ってきてくれるだろうか若干心配ではありましたが、多くの方々に発表できたことを大変うれしく思いました。

私としては、今回の発表をするにあたり当院の分娩の特徴とは・・・?と考えさせられ、勉強できるよい機会となりました。当院では



分娩に関してはほぼ全員CPが適応されています。もちろん普通分娩と帝王切開、緊急帝王切開のCPは違うものを用いてはいますが、現在、使用しているCPが妥当であるか検討すると共に、当科の最大の特徴は「経膈分娩である」とデータを用い提示することで、自分自身も当科の診療がスタンダードかと思いついていましたが、他院ではそうとも限らないと改めて感じさせられました。

また、病棟スタッフの発表では、これまで紙カルテで記載されていた分娩記録が、電子カルテ上で経時記録のできる管理ツールにも着手しているということで、今後ますます便利になっていくと期待させられました。

分娩に関しては、医師不足や助産師不足、さらには少子化と現状維持していただいても難しいなと感じてしまう現状ではありますが当科においては更なる向上を目指していることが分かり、ご静聴してくださった皆様にもそのことが伝わったのではないかと思います。

